



「一人ひとりを大切に」の精神を軸に 学生・教職員そして社会全体に広がる、 多様性理解と人権意識向上のための多角的なアプローチ

- ・開校 / 2019年4月
- ・所在地 / 和歌山市
- ・代表者 / 学長 森田 登志子
- ・教員数 / 18人（女性6人、男性12人）
- ・学生数 / 267人（女性182人、男性85人）
- ・事業概要 / 教育サービス業



01 取組経緯

ジェンダーに関する現状への関心を喚起するためには、従来のような一方的、直接的に伝えていく方法では効果が十分期待できないと考え、このような課題意識を基に、人権啓発イベントの一環として楽しい雰囲気の中で親しみやすい方法で、広く多くの人に情報を発信していくことも必要との考えから本取組に至った。

02 取組内容

✧ 学生が主体となり企画から運営。多様性理解に繋げる様々な取組

- ・「自分の好きを放とう!!」～ファッションショー&講演会
⇒約7か月間にわたる計17回の企画会議を通じ、多くの社会課題の根底に潜む、性別によるアンコンシャスバイアス解消に向けた啓発を、LGBTQ当事者や学生モデルを起用したファッションショー形式で実施。
- ・講演会と対談「性のあり方はグラデーション～パートナーシップ宣誓制度～」
⇒「和歌山県パートナーシップ宣誓制度」の紹介及び多様な性のあり方を正しく理解するための講演会と対談を実施。
- ・「人権わたがし」の販売
⇒自分らしさ、自分らしく生きることの尊さについて考えるきっかけ作りとして、3色のわたがしに、プラスして自分の好きな色を選んでもらう4色わたがしをイベント開催に併せ販売。

✧ 性の多様性への配慮

- ・全教職員を対象とし、性の多様性をテーマに研修会を実施。
- ・学生の困り事が深刻化する前に、学生委員会において、性の多様性の理解に向けた情報発信を実施。また、当事者への学内での支援の方向性を計画。



03 取組の効果、実績

✧ 幅広い層にアプローチしたことによる意識の変化

- ・20歳未満～70歳代以上まで幅広い年齢層、職業層の方が参加。アンケート結果より、人権への興味関心があまりなかった方々の来場につながったことも分かった。
⇒参加後の人権への興味関心：「大変深まった」74%、「少し深まった」26%
- ・企画側にも一人ひとりに意識の変化や成長がみられ、学内や卒業後の職場において、性の多様性において理解者の層を広げるための情報発信等を実施。

✧ 多次世代への知識や価値観の継承

- ・学内において、次世代を担う後輩たちが県企画のジェンダーギャップの解消、ジェンダー平等の実現に向けた取り組みへ積極的に参加するきっかけ作りに貢献。